

2026（令和8）年度 比治山大学入学試験「出題意図」

学校推薦型選抜〔基礎適性検査〕

1 出題の意図

論理的文章を題材にした総合問題2題によって構成されています。2026年度では、読書と知的発達に関する内容を話題にした文章（大問1、約2200字）と、生命科学の本質をテーマにした文章（大問2、約2300字）が出題されました。大問1・大問2で題材とされている文章は、人文科学・社会科学・自然科学の内容に関わる多岐にわたるものですが、内容が把握しやすい明解な文章となっています。そのため、文章を確実に読み取って理解する読解力が求められ、それを問うような出題となっています。設問は基礎的な語彙知識として、漢字問題や語句の意味を問う問題が出題されています。また問題文の理解を問う問題として、接続語や重要語の空欄補充問題、傍線部の意味内容や理由を問う問題、内容と選択肢との内容の合致を問う問題などが出題されています。設問自体は文章の理解が十分であれば、難解なものではありませんが、字数制限内でまとめなければならない形式の記述問題が出題されているため、対策が必要です。解答は全問記述式で記述問題と記号選択問題があります。記述問題は漢字の読み書きのほか、字数制限のある読解問題が出題され、記号選択問題については4つの選択肢から正解を1つ選ぶ形式となっています。なお、設問数は各大問8題の合計16題、解答数は大問1が16個、大問2が13個の合計29個でした。

2 受験対策

(1) 硬質の文章を読み解く読解力を養う

出題の意図で述べられているように、比較的短い論説文・評論文をもとに総合的な読解力を問うという問題になっています。日頃から社会問題や専門分野について、ある程度の形式に則った文章で記述されている新書程度の硬質な文章に読み慣れておきましょう。大学入試で論説文・評論文が出題されるのは、そうした文章を読み取る力が必要となるからです。大学入学後のことも踏まえて読書の幅を広げておくようにしましょう。また、問題集を用いての問題演習も国語の力を伸ばす上で必須となります。問題文の内容理解に重点を置く、根拠を見つけて解答を導き出す、把握した内容をまとめて文章にして表現する、それらを必ず復習する、などの点に注意して問題演習に取り組んでください。

(2) 語彙力・漢字力の充実に努める

文章を読み取る基礎となるのが語彙力です。この点に不安のある人はその強化に努めることが必要になります。具体的にはこれまで使ってきた教材を用い、意味を曖昧なままにしている言葉や書けない熟語について確認していくとよいでしょう。また毎日の学習に漢字練習を必ず組み入れることも大事です。漢字問題の配点は特別大きくはありませんが、記述式のため一点一画を正確に書くことが求められます。また、準備しておけば確実に得点できる分野であり、これをクリアすることで他の設問にも落ち着いて取り組めるようになるはずです。

(3) 記述問題対策は必ず行う

特徴の一つに、解答方式を記述式とし、かつ字数制限のある記述問題を複数出題していることが挙げられます。私立大学全般ではマークセンス方式が主流となり、記述式の設問に取り組むことが少なくなっているだけに記述問題対策はしっかり行いましょう。問題文の理解に深くかかわることが多く、配点も高い傾向にあります。具体的には記述問題を掲載した問題集を用いて解答を試み、正答と比較検討することが基本となります。自分自身で解答の正誤を判断するのが難しい場合は、学校の先生や塾の講師などに見てもらいとよいでしょう。実際に解答をまとめる練習を多く積むことが記述問題に強くなる一

番の方法となります。

一般選抜〔国語〕

1 出題の意図

前期の各日程ともに、問題用紙2ページ程度(約 2000～2500 字)の文章を題材にした総合問題が2題出題されます。出題される文章は人文科学・社会科学・自然科学などのそれぞれの分野や、現代の科学技術や社会問題を話題にしたものまで、さまざまな分野にわたっています。文章量は試験時間に対して多いものではなく、文章と内容は明解で把握しやすいものです。設問については漢字力・語彙力といった基礎的なものから、文脈把握力・内容把握力など受験者の国語力を総合的に見ようとする出題になっています。解答は全問記述式で、大問ごとの小問数は8問程度です。設問は、漢字の読み書き、慣用表現や語句の理解を問う問題、接続語や重要語の空欄補充問題、傍線部の意味や理由を問う問題、文章の内容と選択肢の内容の合致を問う問題などが出題されます。○字以上○字以内といった字数制限のある読解問題が大問ごとに2題程度出題される点や、各大問の最後に文章の内容に合致するものを選択肢の中から一つ選ぶ形式の内容合致問題が出題される点に注意しましょう。各日程の問題はそれぞれ問題文になっている文章こそ違いますが、出題の形式や内容に大きな差はなく、問われる国語力についての傾向は共通しています。実際に問題を解くことで、大学でどのような国語力が求められているかがわかるでしょう。

2 受験対策

(1) 合格に向けた長期計画を立て、それを日々の学習に落とし込もう

受験勉強は長い期間続くことになります。合格に向けてどのように歩みを進めていくか、年間の学習計画を立てましょう。その際に重要となるのは、現在の力を把握し、合格に向けてどのような力を伸ばしていけばよいかを考えた上で学習計画を立てることです。例えば、現在の自分の力では解けない問題を入試までに解けるようにするために具体的に何をすればよいかを考え、それを「一日に2題の読解問題を解く」「漢字、熟語問題を一日10問解く」などの具体的な毎日の学習活動としましょう。地道な学習を続けていくことが求められます。

(2) 日頃から硬質な文章に慣れ、読解力を鍛える

出題される文は比較的明解で内容も把握しやすいものですが、大学入試にふさわしい論理的な文章が出題されます。新聞のコラムや社説、新書など形式の整った硬質な文章を日常的に読むようにするとよいでしょう。また、そのような文章を多く集めた問題集で問題演習を行うことも、文章を読む力、問題を解く力を鍛えるために有効です。読解力を鍛えるための問題演習においては、問題文の内容の理解を第一に本文に向かい合い、設問に対しては、センスや感覚頼みではなく、問題文の理解に即し「本文にこう書いてあるから正解だ」という根拠に基づき、論理的に答えを導き出せるようにしましょう。

(3) 記述形式特有の落とし穴に気をつけよう

漢字問題では、日常よく使われる語が正確に書けるかどうかという観点から出題されており、特別難度の高い問題が出されるわけではありません。しかし、記述式の解答形式のため、だいたいの字形がわかるといっただけでは正解になりません。漢字の部首や点画の書き方などの細かい点を日頃から正確に覚えて書くことが大切です。また、字数制限のある記述問題に取り組む際には、文章中のどのような内容を盛り込むか、文章の形式として整っているかを意識しながら、自分以外の人でも読みやすい、正確な表記で解答するという点にも注意して学習を進めていきましょう。